

中国の古詩に、大生千里と万里と黯くろ暗くら然しかとして銷魂しょうこんするものは別れのみ 君独り何為れぞ此に至る山は山に非ず 水は水に非ず …… 人生は色々、様々ですが悲しくて心が塞ふさがれ、魂も消えるような体験は決別の時でしょう。君はどうしてこのような運命になったのか、山や川でさえも姿を変えていくから まして人間ならば当然なのか。有為転変はこの世の習いです。当山の御本尊様は越後 新潟県 高田の城主がお祀りして見えました。が天下は不動のものでなく何時滅びてしまうのか想像もつかない。そこを思い悩み寺院にて安置供養するのが佛の為と、お考えに成られ善入院で御安置する事に成ったのです。当山の七草法要が二月二十一日 旧曆 一月六日 に勤こまります。七草の入ったお粥かゆを食べる日ですが、七草は一光二尊善光寺如来の御縁日でもあります。我々が亡くなる命終に我々をお迎えに出て下さる御仏様です。寒気身に沁しみる季節ではありますが、御都合を付けて頂き佛縁を頂かれたらと念願しています。

信心は何になるかと人間へば 一寸先の闇の提灯と申します。縁は自分で引き寄せてください。

鷹司誓玉上人は仏様に合掌礼拝するは、佛様の大きいなる智恵と慈悲の御徳を仰ぎ、迷い多き人間がやがていつかはお浄土に至らせていただきたいと願う姿であるとおっしゃってみえます。迷う人の心を詠った詩に 光り輝く掌てのひらに、金の佛ぞおはすなれ。光輝く掌にはつと思えば佛なし。光輝く掌をうちかえしてぞ日もすがら「一日中繰り返すところが面白い。お釈迦様の最後の説法が 佛遺教経」です。一つの戒めとして、欲望の多い人は足る事をしりません。実際は富んでいても、心は貧ますしい。欲望の少ない人は足る事を知っているから実際は貧しくても心は豊かである。」と、佛は何事に於いても正しさを求めます。足るは口を止めると言う字です。欲望の入口・欲望の出口、所作全てにアクセルとブレーキの踏み間違いが無いように心身を鍛たくえましょう。卒業式の季節になります。仰げば尊し吾が師の恩」と何時いつしか自分も師となって社会の為に貢献します。踏み間違いを起こさない、人間として巣立っていくのです。

この世は諸行無常です。変化の無い者はありません。還暦を過ぎたら余生を趣味娯楽にと走るも結構ですが、少しは佛縁に比重をおいてほしいものです。死に急ぐも急がないも自分の自由にはなりません。与へられた命は、返す日が必ず訪れます。在原業平は づひに行く道とはかねてききしかどきのう今日とは思はざりしを」と詠い、おやおや 今日も事故で九歳の子が死に、福田行誠上人は あわれとて見送る我もやがてまたあわれと人に送られる身ぞ」と、町内に今日も回るか通夜の触れ。 **一日一生ここにあり。命終みょうじゆうの時に往く人も残る人も、心顛倒しんてんたうしないように願います。**

人生は通り直なしが出来ない道を歩んで行きます。再トライは出来ませんが同じ道ではありません。時を止める事が出来ません。不幸にして、節々ふしづで失敗した人でも社会貢献して見える方々が大勢見えます。失敗を成功の種になさったのでしょうか。或は見えない力が働き、自分で思い描いた道よりもこちらの道を行きなさいと、先祖から受け継いで来た血の導きもありましょう。あるいは御仏の御加護もありましょう。世の為と思う心に花が咲いたのだと思います。 あいうえお」の人生。 あ」は赤子で生まれて人としての一生が始まります。有難い。 「色々苦勞しよくらうもありますが、苦は閑所、これが娑婆だと思ふべし。後は次回に